



# おかやま環境ネットワーク

NO.69  
2012.11

# NEWS

発行:(財)おかやま環境ネットワーク  
〒700-0026 岡山市北区奉還町1-7-7  
TEL/FAX 086-256-2565  
E-mail:kankyounet@okayama.coop  
HP:http://www.okayama.coop/kankyounet/

## 体験プログラム① 開催報告

### 『海ホタル観察会』

7月15日に倉敷市大浜海岸にて、吉鷹一郎氏(関西高校)を講師に開催し、90名の参加がありました。

当日は、現地の自然環境やいきものについての解説の後、各自が用意してきた「しかけ」による採集体験を行い、講師が採集したウミホタルを観察しながら、詳しい解説を聴きました。

#### 【参加者の感想】

- ・生まれて初めてウミホタルを見ました。とてもきれいで感動しました。一緒に連れてきた子供が環境について興味を持つ良いきっかけになったと思います。
- ・波打ち際にたくさん光ってすごきれいでした!!海を汚さないように、今以上配慮した生活をしたいと思います。
- ・いつまでもこの美しい浜を残したいと思いました。
- ・分解者としてのウミホタルの役割や、そのおかげで環境が保たれているということがわかりました。貴重な体験ができよかったです。

## 体験プログラム② 開催報告

### 『高島干潟いきもの観察会』

7月29日に新岡山港すぐ南の高島干潟にて、齋藤達昭氏(岡山理科大学)、吉鷹一郎氏(関西高校)を講師に開催し、118名の参加がありました。

当日は、干潟の役割や現地のいきものについての解説の後、4班に別れ高島に渡り、いきもの採集体験とおし豊かな「多様性」を感じるとともに、自然環境について考え、姿を消しつつある「干潟の役割」や「水の中の命のつながり」について考えました。



#### 【参加者の感想】

- ・実際参加してみて自然のすごさを改めて知ることができ、環境について今一度考えるいいきっかけになりました。

## 体験プログラム③ 開催報告

### 『みつばち農園エコツアー』

8月28日に山田養蜂場本社工場見学と、はちみつ農園で養蜂体験を行うエコツアーを実施し、46名の参加がありました。

当日は、午前中本社工場にて、太陽光パネルや製造過程の見学と、午後からはみつばち農園に移動し、ミツバチの役割、自然との共生等のお話を聞き、面布を付けて採集体験をしました。



#### 【参加者の感想】

- ・「食べ物や作ってくださった人に感謝の気持ちを持って」と日々話しはしていても、やはり今日のように本物を見ることが最も大切であると思います。ミツバチが環境指標昆虫とお話はとても深く胸に届きました。次世代に何を残していけるのか改めて考えなければと思いました。
- ・自然との共生をこれからの生活の中で考え、行動していきたいと思っています。自然の恵みが造り出して与えてくれるものを感謝して頂いていきたいです。
- ・個人では訪れにくい場所に連れて行ってもらい、貴重な話や体験ができました。本当に詳しく話を聞き、質問にも熱心に答えて頂き良い一日が過ごせました。

## No.69の内容

- I. 体験プログラム①②③開催報告..... P.1
- II. 寄稿『シーボルトとオオサンショウウオ』梶田..... P.2
- III. 助成活動報告『真庭ハンザキ調査団』..... P.3
- IV. 協働事業報告『里海づくり研究会議 ミニシンポ』..... P.4
- V. 協働事業報告『千年の森づくり』  
『エコマインドネットワーク』..... P.6
- VI. 『第10回おかやまホタルフォーラム』ご案内..... P.7
- VII. 水環境フォーラム開催報告・ご案内等..... P.8

梶田 博司

## 『シーボルトとオオサンショウウオ』



江戸時代、オランダから長崎に派遣された医師で博物学者、営業マンにフォン・シーボルトがいる。彼に西洋医学を学ぼうと我が国の若者たちが集い、やがて蘭方医となって全国で活躍したのは周知のことである。岡山県ではその薫陶を受けた人材は津山市に多い。

彼はいわゆるシーボルト事件を起こし、最後は国外追放となる。オランダに帰国するはずの船が台風で難破し、海岸に打ちあげられた積み荷の中から持ち出し厳禁の地図がいくつか発見されたからである。しかし、この事件以前にも相当量の地図を何回にも分けて本国へ運ばせていた。日本進出を企てる国々に高額で販売するためである。アメリカの黒船が迷うことなく江戸幕府の鼻先に到着できたのも地図のお陰だが、新興国だけに西洋諸国より高額で買わされたらしい。

博物学者シーボルトは日本の美術工芸品、武具、民具、動植物標

本など実に多分野の資料を数多く持ち帰っている。それらはライデン市内のシーボルト記念館や自然史博物館に現在も展示中である。長崎で彼の身の世話をしたのは滝であるがアジサイに学名を付ける際に「お滝さん」に因むオタクサを命名した。アジサイは初めて見る印象深い花木であって苗木を随分運んだようである。ライデン市内に限らずオランダ各地にはアジサイがそこそこに咲いている。日本特産の植物とは思えないほどである。記念館に隣接するシーボルト植物園には日本の草花、樹木が所狭しと植えられている。

生きたまま運んだ動物に日本犬、日本猿、オオサンショウウオがいた。オランダ人には犬も猿もうす汚く見え、鳴声はやかましく、しかも決して慣れることがなかったせいで、大変に不人気だったらしい。オオサンショウウオは江戸幕府参上の折、現在の三重県鈴鹿地方で雄雌各一匹を地元民から買い求めている。シーボルトにとって、この巨大な両生類は驚きであった。ヨーロッパで化石は産出するものの動物本体は遠い昔に絶滅しているので、正体不明の謎の生きものとされていた。やむなく旧約聖書のエピソード「ノア方舟」に乗れず溺死した子供の遺体化石説も一部で信じられていた。化石そっ

くりの動物と遭遇したシーボルトはためらわず買ったに違いない。水を満たした大きな桶に2匹を入れ、オランダまでの3カ月の航海の間、寄港地毎に水を替え餌の補充をして雄雌共に生かしたまま持ち帰る努力をした。しかし、餌の不足かストレスによって雌が雄を喰い殺してしまった。残った雄は大切に飼われたが鈴鹿で入手後51年経った1881年6月に死亡した。これが日本産オオサンショウウオの最長飼育記録である。残念ながら国内ではなくオランダのライデン市内で達成された。我が国では当時(地域によっては現在も)、オオサンショウウオは貴重な食料や特別な薬効を有する生きものと見られていたので長く飼育しようとの意欲は乏しかった。運よく長生きして巨大化した個体がいいたとしても、「死んだ爺さんが子供の頃に捕まえてきた」程度では正確な記録にならない。

さて、シーボルトの記録を破る52年(推定)の飼育記録が川崎医大で達成され、今後も記録はさらに伸びそうである。発生学の研究に飼育中の中国産のオオサンショウウオはである。関係者はギネスへの認定申請を検討中と聞く。勿論、シーボルトはギネスなど知る由もないが……。今後の成り行きに御注目いただきたい。

## 梶田 博司 氏

1946年生まれ。

島根県出身

元川崎医療福祉大学教授

日本ホテルの会会員

環境省委託調査委員

倉敷市環境審議会委員

(財)おかやま環境ネットワーク  
理事

## 真庭ハンザキ調査団

## 『とことん調べる 真庭のハンザキ』

## 1. 事業の目的

ここ数年、生息状況が明らかにされていないオオサンショウウオ(別名:ハンザキ)について、真庭市北部の河川で調査しています。

主に、生息実態を把握するための調査と、地元の方々にハンザキに関する取材を行い、地域住民との関わりや過去にあった“食材”に関する情報などを収集しています。



## 2. 主な活動

## ・オオサンショウウオ生息実態調査

ハンザキは夜行性です。私たち調査団は、日暮れに腹ごしらえをし、辺りが暗くなってから川に入っていきます。時に、トラブルも発生しますが、月夜の川にハンザキが生きる姿は、なんとも神秘的な光景です。ついでにホタルの舞いやカジカガエルの美しい鳴き声も観察していると、調査は深夜におよぶこともあります。見つけたハンザキは、体の大きさや体重などを計測し、また川に戻してやります。

## ・聞き取り調査

地元の方々に、ハンザキのことを伺うと、色んなお話しをしてくれ



ます。特に、おもしろいのは、戦前・戦後に食材として利用されていた頃のむかしばなしです。こうした情報は、地元の年配者ならではのもので。私たちは、一人でも多くの方にお会いして、ハンザキに関する様々な情報を集めたいと思っています。

## 3. この活動の成果

オオサンショウウオは、“国宝級の生きもの”。

真庭市の一部は、オオサンショウウオの生息地として国の天然記念物の指定を受けています。

私たちが、これまでに行った調査により、少しずつではありますが、その生息実態がわかってきました。

簡単に言えば、「生息する川」と「生息しない川」にはっきりと分かれるように思われます。

全体を総括できる段階ではありませんが、いずれ調査結果は、公表したいと思っています。

また、活動のおまけとして、真庭市内の小学校において、総合学習支援としての出前授業も行うこ

とができ、地元の子供達にもハンザキを知ってもらうことができました。



## 4. 今後の計画・展望について

引き続き、オオサンショウウオの生息実態調査と聞き取り調査を実施していきます。

実際に調査をしてみると、なかなか思うように進まない実情があります。

『真庭ハンザキ調査団』は、主体的なメンバーはいるものの、会費を集めるわけでもなく、その日の活動に集まった方々を調査団として、ハンザキや他の生き物を観察・調査する足軽な活動グループです。

夜の川では新しい発見がたくさんできます。その一方で、危険とも隣り合わせです。私たちは、多少の増水時、水深のある場所では調査を行いません。なぜなら、危険を回避し、楽しみながら活動を続けたいからです。

このような活動に興味のある方、その日の調査団員になりませんか。



## 〔NPO 法人里海づくり研究会議〕 ミニシンポジウム “アマモとカキの海～日生を里海に～” 「ひなせ千軒漁師の里」

### 1. 開会挨拶

#### (1) NPO 法人里海づくり研究会議・ 奥田節夫理事長

近年「里海」という言葉は国策に反映されるなど注目されてきている。当研究会議は「里海」を主軸に各分野の研究者が集まった組織であり、実際に産官学民の4者が協力して「里海」づくりをしていく為、日生地区を最初に取り組みたいと考えている。今回はその一歩目であり、参加頂いた方との意見交換、討論を中心に理解を深め、課題や方向性を共有していきたい。

#### (2) 日生町漁業協同組合・淵本重廣 代表理事組合長

日生ではアマモを増やす取り組みを続けてきており、近年では大きな成果となってきた。それに伴いカキの生産も安定、向上してきている。これからも研究者の知恵を借りながら漁業者をはじめ多くの方とアマモ場造成や里海づくりの取り組みを続けていきたいので、幅広いご支援ご協力をお願いしたい。

### 2. 講演

#### (1) 『アマモの役割と機能～カキを 育てる海草～』 岡山県農林水産 部水産課・鳥井正也総括主幹

アマモ類は日本の沿岸域によく生える海草で、岡山では「アマモ」と「コアマモ」の2種類が見られる。

日生の海は濁り（栄養）があり水温が高いのでアマモが少々生え

にくい、その環境の中で生きていけるようアマモ自身が種を多く残すようになった。

アマモが多く生えている場所（アマモ場）には、主な機能が4つあり、それは①魚介類の育成場や産卵場、②魚介類の餌場、③海水の浄化、④栄養分の再配分、である。

海水の浄化というと、海水の中の栄養分を取ってしまうのではないかと思う方もいるが、実際には海底へ落ちてきた栄養を根から吸収している。また、抜けたり枯れたりしてもすぐに腐らない。だから、アオサのように腐って、吸収された栄養分が再び海に溶け出すことがない。更に、木や葉っぱと同じように光合成を行い、二酸化炭素を吸収して酸素をつくっている。

アマモ場を増やしていくには、①水がきれいなこと、②浅いこと、③波が静かなこと、がポイントである。その為の場所づくりも行っている。アマモ場が復活してもすぐには魚が戻ってこないという意見も言われるが、復活したアマモ場に固有の生態系が出来上がるのに5年以上はかかると言われている。日生のように20年以上もアマモを増やす取り組みを続けているところはない。日生ではカキ養殖が盛んだが、アマモ場が増えることによる効果（水温を下げる、栄養を提供しているなど）をもっとしっかりと確認していきたい。

#### (2) 『岐路に立つ瀬戸内海漁業』 京都大学大学院農学研究科応用生物科学専攻海洋生物環境学分野・藤原建紀教授

瀬戸内海の栄養や水温、流れについて調査をしている。近年、ノリやワカメの色が落ちてきており問題となっていて、その原因と対策を検討している。

瀬戸内海への栄養は、主に①陸から川を流れてくるもの、②太平洋などの外海からくるもの、の2つある。その中で、今まで調査した結果として、陸域からの栄養が減ってきている。

海水の濁りについて言うと、大変キレイになってきている。これは栄養が減ってきているので、生物からしてみれば餌が無くなってきているということ。

最近、「磯やけ」という海藻がなくなる現象が各地で起きており、ウニやアイゴなどの食害が注目された。しかし、多くの海域では水温が高いことや栄養が無くなったことなど、環境の変化が原因であることが分かった。

瀬戸内海の家砂利採取によって、海底が深くなり光が届かなくなり、濁りが増えたことで海藻が無くなり、イカナゴや貝類などが減少した。それが、家砂利採取の禁止となり、濁りが回復し場所によってはアマモ場が再生したりしている。日生は瀬戸内海において恵まれた海域であり、播磨灘や備讃瀬戸において、海底におちた栄養や生物

が日生沖で湧きあがってくる。潮も速いので海水も混ざりやすい。

栄養が少なくなり、砂漠化した海を豊かな海にするには、ゆっくり育つ植物を育てること。砂地に生えるアマモは、根から栄養をとるので海中に栄養が少ない環境にも強く、濁りが少なくなったことで育ちやすい条件ができています。また、カジメなどの大型海藻が育つ基質や魚礁を入れることで岩場をつくってやればよい。その他、生物の育成環境を向上させるような取り組みを加速させていけば、「きれいで豊かな海」は実現される。

### (3)『日生における里海創生論 ～アマモとカキの里海～』九州大学応用力学研究所・柳哲雄教授

「里海」とは、人の手が加わることにより、生産性と生物多様性が高くなった沿岸海域としている。里山もそうであるが、人や町がうまく環境を使っていかなければならない。

様々な生物が多く居る環境は、それぞれの生息環境がなければならず、人が整備しなければ上手くいかない。

日生町漁協では、アマモの他にも海底ゴミの持ち帰り、自主休漁など、他の漁協が取り組めていない活動が先進的に進められている。五味の市では、旦那が漁獲し嫁さんが販売することで、売れ筋などの情報が分かり、生産量を調整することができ、雑魚を美味しく調理して食べる文化もある。このような取り組みは大いに宣伝していき、付加価値を高くしていくべきと思う。

日本には、日生の他にも進んだ取り組みをしている地区がある。三重県志摩市や沖縄県恩納村などがその一例だが、参考になるものはどんどん取り入れてより良いもの

のを追求して行って欲しい。世界にも面白い事例は多い。

里海として続けていく為には、地元の知恵や文化と科学的な数値と技術が必要になってくる。新しいアイデアを試したり、新しい技術や工夫を行うなど、ともに力を合わせていきたい。

### 3. 総合討論 ～会場参加型パネルディスカッション

コーディネーター：奥田節夫（NPO 法人里海づくり研究会議理事長・京都大学名誉教授）

パネリスト：大久保賢治（岡山大学大学院環境生命科学研究科教授）／清野聡子（九州大学大学院工学研究院環境社会部門准教授）／藤原建紀（京都大学大学院農学研究科応用生物科学専攻海洋生物環境学分野教授）／松田治（広島大学名誉教授）／鳥井正也（岡山県農林水産部水産課総括主幹）／柳哲雄（九州大学応用力学研究所教授）

パネリスト（未講演者）の自己紹介の後に、総合討論を行った。

#### (1)岡山大学大学院・大久保教授より自己紹介

自身の専門は水の流れや速さなどである。岡山、水島などで流れの調査や研究を行っており濁りと関係が強い。

#### (2)九州大学大学院・清野准教授より自己紹介

岡山とは縁が深く、カブトガニや玉野栽培センターにはお世話になった。日生を色々と勉強したい。韓国の海洋博覧会から帰ったばかりであるが、岡山と環境が非常に似ていると感じた。

#### (3)広島大学・松田名誉教授より自己紹介

色々な地区の「里海」づくりに

携わっていて、日生は進んだ取り組みが多くあるが、その一歩先へ進めるよう考えていきたい。

#### (4)総合討論（抜粋）

Q：埋立地を海に戻すことに取り組んだことがある。元の自然や干潟などにすることが重要に思う。（一般参加者）

A：総論的には非常に良いと思う。他の地区でスケールは小さいが潮受け堤防の水門を開放して堤防内の劣化した環境を再整備した事例があるが、所有権や利用調整の問題がでる。共存共栄を見据えて諦めないことが大切。（松田）

Q：ヘドロを改善できる技術は無いのか？行政の行う調査に協力することがあるが底質が悪いことを目の当たりにする。海を混ぜ返すような台風が来ないのも気にしている。（漁業者）

A：岡山県内で成果が出ている、カキ殻による底質改善技術を試したい。地元から粘り強く要望を挙げて欲しい。（柳）

A：丁寧な調査や協議をしていくことが大切。（清野）

A：これから詳しい調査をしていきたい。泥は良いものもある。（大久保）

#### 4. 閉会挨拶

##### NPO 法人里海づくり研究会議・柳哲雄副理事長

意見、疑問など尽きないと思うが、いつでも聞いて欲しい。今回のパネリストは鳥井総括主幹以外、当NPO法人のメンバーである。先般、日生町漁協、岡山県、おかやまコープ、当NPO法人での4者協定の調印が行われ、これからみんなで「感動」をしてけるような取り組みをしていきたい。

〔おかやまエコマインドネットワーク〕

## 『自然エネルギーツアー in 美作路』

おかやまエコマインドネットワークは昨年「食とエネルギーの地産地消を考える」をテーマに活動してきました。今年は昨年の企画でお世話になった岡山県企業局の水力発電所を見学し、同じく昨年の企画でお世話になった美作市地域おこし協力隊の活動を体験するという企画に発展させました。

これからの地域を担う子供達にも体験させたいと夏休みバス企画「自然エネルギーツアー in 美作路」として参加を呼びかけたところ定員いっぱいの45名の申し込みがあり、関心の高さを感じました。実参加42名。

まず美作市久賀の久賀ダムからの利水放流を利用した久賀発電所を堰堤から見学、続いて砂防ダムオーバーフローを利用した梶並発電所内部を企業局の方の案内で見学しました。



梶並発電所 最大出力 180kW

移動して東谷小学校跡地では地域おこし協力隊を中心とした林業グループ yosaku のメンバーによるバターナイフ作り、伐採の実

演、斧や薪割機による薪割体験などを行いました。

昼食は勝田高齢者福祉センター「やまゆり苑」で地元食材を使ったお弁当をいただき、午後からは企業局による省エネ講座や、地域おこし協力隊の活動報告などを聞きました。

さらに湯郷温泉「美春閣」でペレットボイラーを見学。充実した一日となりました。



ペレットボイラー

〔千年の森づくりグループ〕

## 『美咲の森完成記念のつどい』

千年の森づくりグループと美咲町中央小学校は、2004年の台風23号で「被害を受けた森」「開発で失われた森」の再生に取り組んでおり事業はほぼ完成を迎え、この度、豊かな森を体験、実感し、森への理解を深めることを目的に、9月29日、美咲町・美咲中央小学校体育館にて『美咲の森完成記念のつどい』を開催し、75名が参加されました。

当日は、地元杉山清志さん一座による「エイサーの舞踊!」ではじまり、美咲町の岡本初江副町長やエコネット美咲・玉木正夫さんなどからの挨拶の後、岡山森林管理署・川瀬正輝署長らによる「森林教室」にて、国土保全や木材利用、森林再生などについてのお話がありました。

その後「木工教室」「竹粉碎機実演(堆肥化・バイオマス燃料化)」「グリーンカーテンなどの取り組み報告」「ペレット、東北震災支援報告」などがあり、参加者同士交流を深めました。



木工細工：こどもたちは大喜び

地元の栄養委員の皆さんによる、とてもおいしい「おにぎりのプレゼント」もありました。

みなさま、感動、絆をありがとうございました。森の保全、再生や、昆虫、動物、多様な生命、ホタルの里をめざして、今後も取り組みをすすめます。



竹粉碎機実演

## 「第10回おかやまホタルフォーラム」のご案内

県内でホタルの保護、復活、再生をめざし活動している団体や学校からの報告と、ミニ講演会をとおし自然環境保全活動の交流をすすめます。地元「夢づくりクラブ」が保全に取り組む現地（総社市北公園）視察も行ないます。

ホタルに関心のある方どなたでも参加できるフォーラムです。是非ご参加ください。

◆日時：11月17日（土）10：00～12：00  
12：15～現地見学・昼食交流

◆会場：総社市立総社北小学校（総社市泉2-2）なかよしホール2階  
⇒国道180号線「市役所入口」交差点を北に、「泉クリニック」東隣  
午後現地見学（希望者のみ）：総社市北公園・青谷川

◆参加費：300円、昼食代（必要な方）：700円

◆内容：

- ・開会挨拶：片岡聡一・総社市長  
青山勲・岡山大学名誉教授・(財)おかやま環境ネットワーク理事長
- ・取組報告①：『フイゴ（ヒイゴ）湿地を守ろう』総社市立総社北小学校6年生児童
- ・取組報告②：『ホタル復活事業と環境整備について』武内立爾氏・酒津のホタルを親しむ会
- ・取組報告③：『矢掛高校での取組』室貴由輝氏・岡山県立矢掛高等学校教諭
- ・取組報告④：『ホタル再生の年間活動』鶴崎治成氏・夢づくりクラブ
- ・ミニ講演：『目立たないホタル』梶田博司氏 元川崎医療福祉大学教授・  
(財)おかやま環境ネットワーク理事
- ・その他会場内での各団体資料配布、パネル・写真等展示
- ・午後～（希望者のみ）現地見学・昼食交流：総社市北公園・青谷川（現地解散）



◆主催：(財) おかやま環境ネットワーク 共催：夢づくりクラブ 後援：総社市



お申込み：(財)おかやま環境ネットワーク  
〒700-0026 岡山市北区奉還町1-7-7 オルガ6階  
TEL&FAX：086-256-2565  
E-mail：kankyounet@okayama.coop

切り取り線

## おかやまホタルフォーラム参加申込書

FAX/TEL 086-256-2565 (FAX・E-mail・郵送でお申込みください) ※11月7日(水) 必着

ふりがな 氏名				所属団体	
E-mail					
電話		FAX			
住所	〒				
弁当	※○を付けてください 要・不要				

## 第5回水環境フォーラム in 岡山開催報告

『農業に伴う地下水汚染に対する新たな対応  
～クリーニング作物の活用～』  
7月14日にオルガ5階で開催しました。農耕地への過剰施肥に起因する地下水汚染は大きな問題となっており、その対策が喫緊の課題となっています。今回は、科学技術振興機構の戦略的創造研究推進事業「気候変動を考慮した農業地域の面的水管理・カスケード型資源循環システムの構築」に携わる3名の研究者を迎え、農業地域の地下水汚染抑制と資源回収を同時に実現する革新的なシステム開発に関する研究成果を講演いただきました。



農地に由来する地下水汚染の抑制  
高知大学・藤原 拓氏



クリーニング作物からの肥料成分の回収再利用  
岡山大学・永禮英明氏



クリーニング作物を資源に  
鳥取大学・赤尾聡史氏

かけがえのない地球、未来のこどもたちへ！

## 第4回おかやま環境 シンポジウムのご案内

- ①日時：2013年1月26日(土)  
13時～16時
- ②会場：オルガ5階スカーレット
- ③内容：
  - ・基調講演『震災がれきは廃棄物政策の構造欠陥をあばく』中嶋信氏・徳島大学名誉教授、自治体問題研究所副理事長
  - ・報告①『近所に産廃がやってくる！』河原慎司氏・御津の「みどり」と「清流」を守る会事務局
  - ・報告②『海のごみはどこから来る？～高梁川流域での調査から～』塩飽敏史氏・(公財)水島地域環境再生財団
  - ・報告③『女子中学生・高校生が取り組む瀬戸内海の海底ゴミ問題』井上貴司氏・山陽女子中学・高等学校地歴部顧問
  - ・報告④『CO<sub>2</sub>の見える化・カーボンフットプリントから見る廃棄物』仲井俊文氏・株式会社サンキョウ-エンビックス・環境経営支援室エキスパート
  - ・意見交換
- ④参加費：500円
- ⑤定員：50名(先着順)
- ⑥申込：FAX・メール・郵送で参加者名・住所・電話番号をご連絡ください。

## 市民のための環境講座 以後のご案内

- ①会場：オルガ5階 スカーレット
- ②時間：10～12時
- ③受講料：無料
- ④定数：45名(先着順)  
必ず事前にお申込みください。
- ⑤申込：FAX・メール・郵送で参加者名・住所・電話番号をご連絡ください。

第6回12/1(土)『環境問題を捉える視点』吉備国際大学国際環境経営学部長・井勝久喜氏

第7回1/12(土)『生物多様性の意味について』岡山県立大学名誉教授・伊藤國彦氏

第8回3/9(土)『エコロジカル・フットプリントって？～私たちは地球1個分の範囲で暮らすことが不可欠です～』元岡山大学准教授・白井浩子氏

## 環境家計簿カレンダー発行 (同封)のお知らせ

おかやま環境ネットワーク環境家計簿委員会と岡山市とで協働で作成した「環境家計簿カレンダー2013」ができあがりまして、会員の皆様に1部同封しています。ご活用ください。

※「環境家計簿モニター」の皆様へお願い  
2012年実績報告(7～12月分)を2013年1月中旬に報告をお願いします。



.....  
 2012年度会費をまだ納付していない会員の皆様に振込用紙を同封しております。お振り込みくださいますよう、お願いいたします(入れ違いでお振り込みいただいておりますらご容赦ください)。  
 会費は、企業・協同組合：1口2万円、団体・NPO法人：個人：1口2千円、1口以上を.....  
 お願いいたします。

■お問い合わせは  
 (財)おかやま環境ネットワーク  
 〒700-0026  
 岡山市北区奉還町1-7-7(オルガ6階)  
 TEL/FAX 086-256-2565  
 E-mail: kankyounet@okayama.coop  
 HP: http://www.okayama.coop/kankyounet/